2025 年棚田学会現地見学会「愛媛県南予地域の棚田と段畑」実施報告

棚田学会研究委員会

1．期間：2025 年 6 月 14 日（土）～6 月 15 日（日）
2．場所：現地見学会　奥内の棚田、遊子の段畑
　　シンポジウム　宇和島市歴史資料館
3．参加者：現地見学会（14 日）　　25 名
　　シンポジウム（15 日）　45 名

4．現地見学会（6 月 14 日）
（1）奥内の棚田（北宇和郡松野町）
　現地では奥内の棚田保存会の井上一弥氏より棚田の概要、水系の特徴などについて解説していただいた。
重要文化的景観（文化庁）に選定（平成 29 年 2 月）、繋ぐ棚田遺産（農水省）に指定された棚田である。石積みの棚田景観が印象的であり、その保全も含めて丁寧に棚田が継承されている。また愛媛大学大学院、山本浅幸特定教授（棚田学会会員）より、近隣の松野東小学校の全学年児童を対象として、棚田、景観、自然、歴史、暮らしを学ぶカリキュラムを組んで地域住民と一緒にフィールドワークをしていることなどが説明された。将来は地域に若者が戻ってくることも念頭に愛媛大学とも連携して実施しており、当日は地元集落出身の愛媛大学の学生も同行していたことも印象的であった。
棚田米のブランド化にも取り組み、ふるさと納税の返礼品として完売するなど売れ行きは好調とのことである。今後、地域おこし協力隊の活用、棚田オーナー制度の導入、棚田ガイダンス施設（令和 9 年度完成予定）の活用による地域外との交流の促進を考えているとのことである。
　他方、重要文化的景観であるためか、教育委員会部局が主導しており、農林部局の関与が薄い印象であった。保存会の方に聞くと、棚田地域振興法に基づく指定棚田地域の指定を受けたいが町役場の反応が良くないとのこと。棚田のガイダンス施設は文化庁の助成で設置する一方で中山間直接支払の棚田加算も受けておらず、教育部局と農林部局の連携が課題であると思われた。

（2）遊子の段畑
現地では NPO 法人段畑を守ろう会の松田鎮昭氏より段畑の歴史、保全の現状などについて解説していただいた。
　重要文化的景観（文化庁）に国内 3 例目として選定（平成 19 年）されている。歴史的に漁業の地域であったが、漁業の発展とともに増加する人口にあわせ厳しい地形を拓いて食料自給のための石積みの段畑を形成していった。作物は当初甘藷を導入していたが現在はジャガイモ（だんしゃく）が中心となっている。海藻を集めて肥料として活用し、海と里との連携モデ

ルといえる。最盛期は半島全域に段畑が形成されていたが、現在、多くは森林化しており遊子水荷浦にのみまとまって保全されている。

平成 19 年に文化庁からの薦めもあり、NPO を設立し保全活動を展開してきた。保存会発足のきっかけは重要文化的景観選定に向けた体制づくりであった。設立当初から段畑で食べて行けるかとの批判もあったが、ジャガイモ焼酎の開発など収益部門にも力を入れ、現在ではインバウンドを含め多くの人々が訪れる場所となっている。今後については会員の高齢化による活動継続が懸念されている。

5．シンポジウム（6 月 15 日）

宇和島市歴史資料館 2F ホール

開催に先立ち、共催者である宇和島市教育委員会、山村由美教育長よりご挨拶をいただいた。

（1） 基調講演：大本敬久先生：愛媛大学地域協働推進機構　特定准教授

「愛媛県南予地域の急傾斜地農業の成立と展開―宇和海沿岸部の段々畑と山間部の棚田―」

愛媛県における南予地域の歴史的位置付けや、急傾斜地農業が発達してきた背景などについて解説された。

（2） 報告 1：井上 一弥 氏 （奥内の里保存会）:「棚田を生かした地域づくり」

小中学校教育との一体化による地域づくりの将来展望、保存組織の悩みや今後の展望等について報告された。

（3） 報告 2：:松田 鎮昭 氏 （NPO 法人 段畑を守ろう会）:「段畑を生かした地域づくり」

この段畑は日本国内でも特筆すべき農業形態であり農業景観であることから、NPO 法人を立ち上げたいきさつや、法人が存続するためにはどうすべきかなどについて報告された。

（4） 報告 3: 河野 豊 氏 （樫谷棚田保存会）:「樫谷棚田保存会の活動について」

中島先生（早稲田大学名誉教授）の指導を受け、地元農家を中心に保全活動が発足し現在に至った経過や、棚田オーナー制度の現状などについて報告された。

（樫谷棚田は狭小な道を通らなければたどり着けない棚田であるため、今回の見学会においてはオプション扱いとし、15 日午後、希望者のみで見学した。）

（5） 総合討論

基調講演の大本先生および 3 報告者を中心に、棚田学会研究委員長の司会により討論を行った。主として棚田、段畑の保全組織のあり方、課題、将来展望などについて議論し、フロアからも活発な意見が寄せられた。また奥内の棚田を支援している松野町教育委員会、亀澤主査、遊子の段畑を支援している宇和島市教育委員会、安藤主査からも、行政の立場からどの

ような手立てを行っているかなどについて報告された。

研究委員会の反省として、今回の二ヶ所の見学地は両者とも重要文化的景観（文化庁）に選定された棚田、段畑であり、行政側としては教育委員会主導であった。本来の生業としての農業を考えると、農政部局としての取り組みや意見もぜひお聞きしたかったところであり、見学予定を検討し地元交渉する段階から配慮すべきであったと考える。

（了）

＜以下、次ページより見学会状況写真＞

2025 年 棚田学会現地見学会　実施状況

2025.06.18
棚田学会研究委員会　上野裕治

＜6 月 14 日　現地見学会＞

松野町奥内の棚田

棚田についての解説

参加者集合写真

遊子の段畑

現地レストハウスにて解説

参加者集合写真

＜6 月 15 日　シンポジウム　　宇和島市歴史資料館 2Ｆホールにて＞

シンポジウムの状況（事例発表）

シンポジウムの状況（総合討論）